

【編集委員会特別企画】

研究論文・研究ノート・実践研究報告の書き方講座—『関西教育学会研究紀要』掲載にむけて—

研究論文・研究ノート・実践研究報告の書き方

宮坂朋幸（『研究紀要』編集副委員長、大阪商業大学）

1. 学会の研究紀要に掲載される論文とは？

(1) 形式が整っている。

- ①問題意識、先行研究、課題設定、論証、結論（考察）が明確。
- ②注や参考文献の書き方が適切。
- ③記述の根拠が明確な文章表現（「論」理的な「文」章）。

(2) 学術界における面白さ（研究意義）が明確。

- ①自分にとっての面白さとの違い。
- ②先行研究に対して、自分の研究のオリジナリティはどこにあるのかを明示する。

これまでその分野の研究が明らかにしてきた成果とどこが違うのか、その分野で課題とされてきたことにどう応えているのか。先行研究を批判的に検討することによって明示する。

→「関西教育学会」の「研究紀要」に掲載する理由を、査読者が読み取れるように書く。

2. 研究論文・研究ノート・実践研究報告の共通点と相違点

(1) 共通点

- ・上記1参照。

(2) 相違点（投稿規程の2より）

- ・「研究論文」：学術研究のオリジナルな著述
- ・「研究ノート」：萌芽的な性格、または速報性を重視した著述
- ・「実践研究報告」：教育現場での実践または観察を含み、教育改善への視点を有する著述
→「関西教育学会教育実践研究賞」あり。

3. 査読について

(1) なるべく多くの良い論文を掲載するための査読

- ・「落とすための査読」ではない。

(2) より良い論文にするための査読コメント

- ・先行研究やその読み方に対する疑問
- ・根拠が読み取れなかった部分、曖昧な表現、再確認して欲しい「誤字」等。

4. 投稿・再投稿時の注意事項

(1) 投稿規程をよく確認してから投稿する。

(2) 再投稿時には、別紙で修正箇所を明示し、修正要求以外の部分を書き換えない。

⇒ 多くの会員の皆さまからの投稿をお待ちしています！